

# 2014 年度事業報告

## I. 総務会 総務会

### 1. 委員

担当理事 河合 富士美（専務理事・聖路加）、児玉 閔（東邦大医）、諏訪部 直子（杏大医）、坪内 政義（個人）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 2014年4月11日  
第2回 2014年6月6日  
第3回 2014年7月18日  
第4回 2014年9月29日  
第5回 2014年12月5日  
第6回 2015年2月17日

2) 第85回総会を2014年5月30日に日本科学未来館にて開催した。

3) 同分科会を2014年5月31日に日本科学未来館にて開催した。

4) 第86回（2015年度）総会及び分科会を2015年5月28日（木）～29日（金）に日本科学未来館にて開催することとし、実行委員会（委員長:坪内理事）を立ち上げた。

5) 第87回（2016年度）総会の開催を和歌山市に内定した。

6) 2014年度地区会事務局連絡会議を2014年12月4日（木）に開催した。

7) 2014年度評議員会を2015年1月13日（火）に開催した。

8) 委員長会議につき検討したが開催には至らなかった。

9) 地区会からの会友推薦につき確認した。

10) 2013年度～2015年度重点目標のうち、「A.3.国立ヘルスサイエンス情報センター設立への基盤作りを行う。」に向けては関係諸団体との連携を強化する方向で進めることとした。

11) 日本医書出版協会（JMPA）との協議のため、総務会の下にワーキンググループを置いた。（詳細は、以下、事業別報告参照）

12) 国際交流委員会をはじめとする活動によって、韓国医学図書館協議会（KMLA）、米国医学図書館協会（MLA）との交流を進めた。

13) 理事会及び各委員会活動に関する検討、意見調整を行った。

14) その他、担当委員会があるものは、当該委員会の事業報告を参照のこと。

15) 事務局業務をサポートし、事務的な判断を行った。

16) 「医学図書館員のための倫理綱領」について、所管は理事会とし、2015年度から要覧に掲載することとした。

### 3. 事業別報告

#### 1) 医書電子化検討ワーキンググループ

##### (1) 委員

担当理事 児玉 閔（東邦大医）

グループ長 児玉 閔（東邦大医）

委員 井上 恵美（浜松大医）、河合 富士美（聖路加）、今野 穂（札医大）、

田口 宣行（埼玉大）

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 2014年12月19日

第2回 2015年2月25日

②日本医書出版協会(JMPA)との意見交換

JMPA との間で、国内医書電子化に関する意見交換を2度行った。意見交換の場では、JMPA から JMLA 会員に向けたアンケート提案や国内医書電子版の提供モデルが話題になった。

③今後の課題

JMLA 会員内での国内医書利用実態の把握。

4. その他の実績

1) 会員の動向

入会

正会員 B

神奈川県立足柄上病院図書室

神奈川県立がんセンター図書室

神奈川県立精神医療センター図書室

神奈川県立循環器呼吸器病センター図書室

静岡赤十字病院図書室

正会員個人 8名

協力会員 なし

維持会員 なし(団体)

維持会員 なし(個人)

退会

正会員 A

香川大学図書館医学部分館

正会員 B

埼玉県立がんセンター図書館

正会員個人 6名

協力会員 なし

維持会員 2機関(団体)

維持会員 なし(個人)

2015年3月31日現在の会員数

正会員 A 97機関

正会員 B 45機関

正会員個人 99名

協力会員 2機関

維持会員 18機関(団体)

維持会員 2名(個人)

2) 寄付 (助成金)

株式会社紀伊國屋書店

丸善株式会社

3) その他

## 資料の共同購入

図書館年鑑 32冊 576,000円  
インセットテープ 22、23回合計 129,200本 131,575円  
NLM 複写依頼 3,331件 3,959,420円  
KMLA への文献複写提供実績 37件

## Ⅱ. 企画・調査 企画調査委員会

### 1. 委員

担当理事 山田 久夫 (個人)  
委員長 青木 裕子 (天理病)  
委員 曾田 昌弘 (関医大)、田中 律子 (滋慶院大)、枚田 眞紀子 (京府医大)、  
土佐 智義 (個人)

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 2014年7月16日  
第2回 2014年11月28日  
第3回 2015年3月

#### 2) 第85次会員統計

予定通りデータ提出依頼を6月23日に行い、10月6日に完成版を本会ホームページに掲載した。

#### 3) 第65回(2014年度)重複雑誌交換事業

今回から専用メーリングリストによる会員相互の随時交換とした。7月22日に専用メーリングリストへの追加登録の広報を、9月1日に事業開始の広報を行った。実績報告書提出期限は3月27日とし、そのまとめについては、本会ホームページ掲載のみで、機関誌への掲載は中止した。

#### 4) 「要覧2014」の発行

予定通り7月に原稿提出依頼を開始したが、規程の改定作業が多く組織制度委員会での議論が長引いた影響で編集作業が遅れ、12月1日の発行となった。今回から「新訂公用文の書き表し方の基準」に準拠した記述に改め、新規分からの年(度)表記を西暦とした。

#### 5) アンケート調査

依頼が4件あり、調査結果を本会ホームページのアンケート調査アーカイブのページに掲載した。

### 3. 今後に向けた課題

#### 1) 重複雑誌交換事業について

新手順について会員の意見を徴取し、今年度の事業に反映させる。

#### 2) 要覧について

編集に際し、統一記述方法を探る。

### Ⅲ. 機関誌「医学図書館」編集

「医学図書館」編集委員会

#### 1. 委員

担当理事 磯野 威（個人）（2014年5月まで）、北川 正路（慈恵大）（2014年6月から）、  
平 紀子（個人）（2014年6月から）

委員長 大谷 裕（東邦大医）

委員 浅野 泉（旭医大）（2015年3月から）、大野 圭子（個人）（2015年3月から）、  
菅 修一（個人）（2014年6月から）、小嶋 智美（個人）（2014年5月まで）、  
笹谷 裕子（杏大医）、高畑 亜紗美（東医大）、百留 悦子（埼医大）、藤村  
三枝（滋医大）（2014年6月から）、堀井 健司（兵庫医大）（2014年5月まで）、  
吉新 裕昭（獨協医大）（2014年5月まで）、若田部 純子（医中誌）

協力委員 成田 ナツキ（個人）、菊池 満史（北大）、寺崎 宏美（山形大医）、金子 賢  
一（埼医大）、松田 知子（福井大医）（2014年6月まで）、松井 日出海（福  
井大医）、伊東 洋輔（信大医）、原 紀子（個人）、山下 ユミ（京府医大）、  
近藤 薫（徳大蔵）、阿部 佐和子（福岡大医）（2014年5月まで）、田尻 千  
浪（産医大）（2014年6月から）

#### 2. 事業報告と年間目標の達成状況

##### 1) 委員会の開催

第1回 2014年5月12日 医学中央雑誌刊行会 会議室

第2回 2014年9月1日 千代田図書館 第1研修室

第3回 2014年12月11日 東京慈恵会医科大学 学術情報センター会議室

第4回 2015年3月19日 十一房印刷工業株式会社 会議室

##### 2) 「医学図書館」（年4号）の刊行

(1) 各号の定期刊行を維持する。

① 「医学図書館」（61巻1号）2014.3.20 発行

特集：医学中央雑誌創刊110周年・第20回医学図書館員基礎研修会

② 「医学図書館」（61巻2号）2014.6.20 発行

特集：第20回医学図書館研究会・継続教育コース

③ 「医学図書館」（61巻3号）2014.9.20 発行

④ 「医学図書館」（61巻4号）2014.12.20 発行

⑤ 「医学図書館」（62巻1号）2015.3.20 発行

特集：第21回医学図書館員基礎研修会

(2) 編集体制の安定化を進める。

編集委員、編集協力委員の補充を図った。

### Ⅳ. 出版

出版委員会

#### 1. 委員

担当理事 平 紀子（個人）、北川 正路（慈恵大）

委員長 白土 裕子（医中誌）

委員 原 千延（国医情）、吉新 裕昭（獨協医大）（2014年7月から）

## 2. 事業報告と年間目標の達成状況

### 1) 委員会の開催

第1回 2014年12月19日 東京慈恵会医科大学 学術情報センター会議室

第2回 2015年3月19日 東京慈恵会医科大学 学術情報センター会議室

### 2) 出版物

#### (1) 「わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド 検索事例付」

在庫が1,100部のため(2015年2月末時点)、今年度と来年度(2015年度)は状況を勘案し、必要に応じて増刷・改訂の準備を開始することとした。

#### (2) 「図解 PubMed の使い方 インターネットで医学文献を探す」

在庫が800部のため(2015年2月末時点)、今年度と来年度(2015年度)は状況を勘案し、必要に応じて増刷・改訂の準備を開始することとした。

#### (3) 新「米国国立医学図書館分類法(NLMC)日本語版」の出版

2014年10月に発足したNLMC日本語版作成ワーキンググループと連携し、2016年度発行に向けて準備を進める。ワーキンググループは翻訳作業を進め、出版委員会は印刷会社の選定に取り掛かることとした。

### 3) 「相互利用便覧」Web版のデータ確認

2012年度に実施した一斉確認以降、各館の依頼に応じて個別修正を行ってきたが、最新の情報を提供するため、2015年度から、定期的に(年1回予定)各館に主任メールにて変更の有無を確認することとした。

## V. 広報 広報委員会

### 1. 委員

担当理事 平 紀子(個人)、北川 正路(慈恵大)

委員長 平 紀子(個人)

委員 川崎 かおる(岩医大)(2014年10月から)

ホームページ担当ワーキンググループ

藤沢 靖子(杏大医)(グループ長)、田中 愛子(旭医大)、川崎 かおる(岩医大)(2014年5月まで)、西戸 雅博(福島医大)(2014年6月から)、森田 奈津子(慈恵大)、中越 晴彦(松歯大)(2014年5月まで)、原 猛(長野看大)(2014年6月から)、森田 ゆかり(藤田学園図)、寺升 夕希(滋医大)、鈴木 美智子(香大医分)(2014年6月まで)、柴田 晃代(香大医分)(2014年7月から2015年3月まで)、河上 章彦(九大医)(2014年5月まで)、志波原 智美(長大医)(2014年6月から)、鷹野 祐子(都医学研)

## 2. 事業報告と年間目標の達成状況

### 1) 委員会の開催

第1回 2014年12月11日 JMLA 中央事務局

第2回 2015年2月6日 東京慈恵会医科大学 学術情報センター会議室

\* 広報に関する事項は総務会にて審議する予定であったが、担当理事と委員からなる広報委員会を開始した。

第1回 ホームページ担当ワーキンググループ委員会

2014年11月21日 東京慈恵会医科大学 学術情報センター会議室

### 2) 本会の諸活動に関する会員間の意見交換、会員外への宣伝活動の促進

具体的な活動はなく、次年度の継続課題となった。

- 3) 本会案内パンフレットの更新  
2015年度前半に新版を完成するように準備を進めた。
- 4) 本会及び認定資格のロゴの商標登録  
商標登録代行について複数業者に見積もりを依頼し、発注する業者を決定(理事会承認)した。
- 5) 本会ホームページの管理  
ホームページ担当ワーキンググループ委員会を開催した。

## VI. 雑誌 雑誌委員会

1. 委員  
担当理事 児玉 関(東邦大医)  
委員長 富田 麻子(日医大中)  
委員 江幡 歌奈子(東邦大医)、川島 恵里香(東医大)、鷹野 祐子(都医学研)、田口 宣行(埼医大)、南野 典子(慶大医)、宮本 高行(阪医大)
2. 事業計画と年間目標の達成状況
  - 1) 委員会の開催  
第1回 2014年6月10日  
第2回 2014年9月1日  
第3回 2015年1月14日
  - 2) コンソーシアム提案交渉  
日本薬学図書館協議会(JPLA) 雑誌問題検討委員会と合同で、出版元・代理店と2015年契約に向けたコンソーシアム提案の交渉をのべ22回行った。また2016年契約に向けての交渉をのべ6回行った。
  - 3) コンソーシアム提案の充実  
病院向け提案、日本語資料の提案、保健医療領域に特化したコンソーシアム提案の充実を目指し、交渉を行った。BioMed Central、iGroup、南江堂から新たな提案を得た。Swetsから提案があったが、破産のため、9月26日に提案は取り下げられた。最終的に出版社ベースで39社からコンソーシアム提案を受けた(前年に比べ3社増)。
  - 4) JMLA/JPLA コンソーシアム説明会の開催  
JPLA 雑誌問題検討委員会と合同で、JMLA/JPLA コンソーシアム説明会を東京と京都で開催した。京都説明会では、近畿地区会にお手伝いいただいた。
    - (1) 東京会場：2014年9月2日(火) マイナビルーム  
参加者：111名(JMLA68名、JPLA43名)、参加企業：26社(展示26社、プレゼン22社)
    - (2) 京都会場：2014年9月5日(金) 京都テルサ  
参加者：45名(JMLA22名、JPLA23名)、参加企業：22社(展示22社、プレゼン19社)
  - 5) コンソーシアム交渉の負担軽減  
前年度同様、数社の交渉を同じ日にまとめたが、交渉の日数は前年度の14日から24日に増えた。これは新規提案する版元が増えたこと、2016年契約向け交渉が早くから始まっていることなどによる。

#### 6) 他コンソーシアムとの連携

大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）とは、AAAS/Science について合同の交渉を行った。そのほかの提案での連携の可能性についても、意見交換を行った。また、2014年度分科会 B では今村昭一氏（JUSTICE 運営員会委員長、早稲田大学）に話題提供者として登壇いただいた。

韓国医学図書館協議会（KMLA）とは総会前のビジネスミーティングで意見交換を行った。2014年度分科会 B では梁 承浩氏（蔚山大學校峨醫圖書館）に話題提供者として登壇いただいた。

#### 7) 分担購入・分担保存アンケート

分担購入の継続、分担保存の導入について、正会員 A・B にアンケートをとった。

### 3. その他の報告事項

#### 1) JMLA/JPLA コンソーシアム説明会に関するアンケートの実施

京都、東京両説明会会場で、参加者に説明会についてのアンケートを実施した。回答を HP と機関誌「医学図書館」で公開した。

#### 2) コンソーシアム提案に関するアンケートの実施

2016年コンソーシアム交渉の参考とするため、2015年コンソーシアム提案について、正会員 A・B にアンケートを実施した。

#### 3) 2014年度分科会 B 開催協力

2014年度分科会 B が「コンソーシアム連携の可能性」というテーマで開催され、富田委員長が話題提供者として登壇した。

#### 4) 委員会人員体制の変更

2014年6月より田口委員（埼玉大）がメンバーに加わり、1名を増員した。

### 4. 今後の課題

1) コンソーシアム提案交渉の負担軽減として、委員会主導の交渉日程の実現。

2) 病院向けコンソーシアム提案について病院部会との連携強化。

## VII. 教育・研究 教育・研究委員会

### 1. 委員

担当理事 酒井 由紀子（個人）

委員長 加藤 砂織（東女医大）

副委員長 西村 志保（日医大中）

委員 大瀬戸 貴己（奈医大）、佐藤 正恵（個人）、佐山 暁子（東邦大医）、三谷 三恵子（慶大医）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 2014年7月28日

第2回 2014年9月17日

第3回 2014年12月19日

第4回 2015年2月12日

#### 2) 第21回医学図書館員基礎研修会（近畿地区）

- 日 程：2014年8月6日（水）～8日（金）  
会 場：大阪医科大学  
テーマ：「医学図書館員としてのスタート-基本を学ぶ-」  
受講者数：58名（部分参加含：JMLA35名、その他23名）
- 3) 第21回医学図書館研究会・継続教育コース（関東地区）  
日 程：2014年11月19日（水）～21日（金）  
会 場：聖マリアンナ医科大学  
テーマ：「つながる - つたえる - 図書館の"わ"」  
研究会 演題 11件  
継続教育コース  
    テーマ1 「文献検索講習中級」  
    テーマ2 「科学におけるモラルを考える」  
参加者数：67名（内訳：JMLA54名、その他13名）  
        継続教育コース I 53名、II 45名
- 4) 第16回図書館総合展フォーラム（JMLA/JPLA 共催）  
日 程：2014年11月7日（金）  
会 場：パシフィコ横浜 第5会場（シアター形式200席）  
テーマ：「医療系日本語電子ブックの本格的な提供開始に向けて」  
参加者数：173名（内訳：JMLA80名、JPLA24名、その他69名）
- 5) 助成募集  
2015年度研究助成、2014年度海外研修助成の募集をおこなったが、ともに応募がなかった。海外からの講師、参加者招聘助成については、規程案を提出中である。
- 6) 研修会マニュアル改訂  
（1）基礎研修会実行委員会用マニュアルを改訂した。  
（2）研究会継続教育コース実行委員会用マニュアルを改訂した。
- 7) 講師向け講義シラバス改訂  
シラバスは実施プログラムに合わせて改変して使用したため、講師から寄せられたコメントは参考として委員会内で共有した。また次年度の実行委員会に引き継ぎ事項として伝えた。
- 8) 基礎研修会事後レポート審査  
提出されたレポートを審査し、一部は再提出を求めた。基準を満たすものについて実行委員会を通じてレポート評価証明書を発行した。
- 9) 韓国図書館見学ツアーの実施  
日 程：2014年7月10日（木）～12日（土）  
参加者：10名（すべてJMLA）  
見学先：蔚山大学アサン医学図書館、韓国カトリック大学医学図書館、国立中央図書館  
図書館見学のほか、韓国医学図書館協議会メンバーとの意見交換の場も設けられ、交流を深めることができた。
- 10) 専門職能力開発プログラムへの移行体制の検討  
「JMLA コア研修（現行：医学図書館員基礎研修会）」、「JMLA 学術集会（現行：研究会）」、「JMLA-CE（現行：継続教育コース）」のスケジュール、運営体制などを検討し、理事会にて審議の上決定した。この決定に基づき規程案を作成し、提出した。
3. その他の報告事項  
1) MLA2015年次大会に派遣研修する者を1名公募することとなり、募集要項を作成した。



年度内に募集、派遣者決定の予定である。

- 2) 海外からの講師、参加者招聘助成については、随時受付とすることが理事会で決定している。

#### 4. 今後の課題

- 1) 専門職能力開発プログラム移行について、規程承認後、ワーキンググループ立ち上げなど、具体的な準備を行う。
- 2) MLA の交換留学プログラム International Visiting Health Information Professionals Program (I-VIP) について、派遣者の公募について準備を行う。
- 3) MLA 年次大会派遣研修者の公募を継続的に行う。
- 4) 新体制での継続教育コース開催についての検討を行う。

## Ⅷ. 医療・健康情報

医療・健康情報委員会

### 1. 委員

担当理事 磯野 威 (個人)

委員長 市川 美智子 (愛医大)

委員 岡田 光世 (東邦大医)、西 さやか (東医大)、野中 沙矢香 (杏大医)

医療・健康情報ワーキンググループ

グループ長 渡邊 基史 (個人)

委員 関 和美 (個人)、高橋 宏美 (相模原市役所)、塚田 薫代 (個人)、  
原 紀子 (個人)、舟田 彰 (個人)、柚木 聖 (個人)

からだところの情報センターワーキンググループ

グループ長 磯野 威 (個人)

委員 阿部 信一 (慈恵大)、及川 はるみ (聖路加)、成田 俊行 (個人)

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 2014年7月31日

第2回 2014年10月9日

第3回 2015年1月14日

第4回 2015年3月10日

医療・健康情報ワーキンググループ会議

第1回 2015年3月10日

からだところの情報センターワーキンググループ会議

第1回 2014年9月4日

第2回 2014年11月10日

第3回 2015年1月15日

第4回 2015年3月3日

医療・健康情報委員会ワーキンググループ合同会議

第1回 2014年10月9日

#### 2) 医療・健康情報サービス研修会

(1) 2015年度実施に向け、会場・日程・プログラム等の検討を行った。

①会場：日本図書館協会研修室 (予定)

②日程：2015年11月24日（火）～25日（水）（予定）

③形式：日本図書館協会との協力開催

3) 委員会ホームページ

2014年5月に公開。更新内容について、医療・健康情報ワーキンググループを中心に検討を行った。

4) 委員会紹介パンフレット

2014年度中に原稿作成し印刷することを予定していたが、事業内容の部分を確定することができず、2015年度への継続課題となった。

5) 講師育成研修プログラムの構築

(1)「医療・健康情報サービス研修会の進め方」を作成し、委員会ホームページで公開（会員限定）するための準備を行った。

(2)過去の研修会で使用したパワーポイントを元に、「医療・健康情報サービス研修会の進め方」に準拠した雛形スライドを作成し、委員会ホームページで公開（会員限定）するための準備を行った。

6) からだとこころの情報センター

「国立ヘルスサイエンス情報センター検討委員会」が解散したことから今年度より本委員会に所属し活動を継承することとなった。

(1) 2016年度全面改修に向け「スケジュール」の検討を進めた。

(2)「からだとこころの情報センター」Webサイト基本仕様案を作成した。

(3) NPO 日本医学図書館協会の特色を活かせるコンテンツの検討を進めた。

3. その他の報告事項

1) 講師紹介

山梨県立図書館から中央事務局に対し、研修会講師の紹介依頼があった。ワーキンググループから1名を紹介した。

2) 『やってみよう図書館での医療・健康情報サービス改訂版』

2015年3月の時点で残数が160冊となった。

4. 今後の課題

1) 各地区における講師の育成

2) 委員会及びからだとこころの情報センターホームページの、効果的運用の検討

## IX. 認定資格運営

認定資格運営委員会

1. 委員

担当理事 酒井 由紀子（個人）

委員長 城山 泰彦（順大）

委員 阿部 潤也（東歯大）、小林 晴子（愛医大）、永田 治樹（立教大学）、  
山崎 むつみ（静岡がん）、山下 ユミ（京府医大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 2014年6月27日

第2回 2014年8月25日

第3回 2014年12月17日

第4回 2015年2月16日

第5回 2015年3月20日

2) 申請募集と認定審査

(1) 第22回募集 (2014年7月受付、9月認定)

審査件数：20

認定件数：19 (基礎14、中級3[新規2]、上級2[新規1])

(2) 第23回募集 (2015年1月受付、3月認定)

審査件数：23

認定件数：22 (基礎13、中級3[新規1]、上級6 [新規2])

(3) 資格取得者の現存数

第23回募集までで361名

(基礎290名、中級21名、上級50名)

3) イメージロゴの商標登録とプロモーショングッズ

2013年12月に認定資格イメージロゴを公募し、採用作品を決定した。現在はイメージロゴの商標登録を進めており、登録を終えたのちに公開し、プロモーショングッズを製作する予定である。

4) 各種情報の更新

「JMLA 認定資格スケジュール」や「JMLA 研修時間数一覧」など、申請者に役立つ情報を適宜更新して掲載した。

5) 業務分掌と年間スケジュールの共有

認定資格運営委員会とJMLA中央事務局との業務分掌の共有について、引き続き検討を進めている。申請者からの問い合わせは、中央事務局が窓口となり、認定資格運営委員会が回答する。定型的な質問は、従来通りJMLA中央事務局で回答する。

6) 専門職能力開発プログラムへの対応

担当理事から認定制度と教育プログラムの方針案等について逐次報告を受けており、委員会として情報を共有している。第85回総会で承認された「専門職能力開発プログラム最終報告書(提案)」に基づき、2017年1月の第27回募集からの認定資格制度改訂を視野に入れた、検討を進めている。

7) 教育・研究、認定資格運営委員会との連携推進

(1) 研修プログラムにおける認定資格要件やポイント数確認など、教育・研究委員会、研修会実行委員会、担当理事との調整は定例化している。

(2) 第21回医学図書館員基礎研究会実行委員会の提案に応じ、講義5「日本医学図書館協会の意義と活動」の中で、認定資格に関する講義を行った。山下委員が担当。2014年8月8日開催。

8) 広報の整備

(1) JMLA主催の研修機会について、受講時間数と認定ポイントがわかるよう、認定資格ウェブサイト「JMLA 研修時間数一覧」を掲載した。ポイント対象となる、過去5年にJMLAが主催した研修機会を掲載している。

(2) 今後の募集予定がわかるように、第24回募集までの「今後のスケジュール」を更新した。

9) 申請と審査の仕組みの整備

(1) 過去の審査事例に基づいた事例の整理について懇談を行った。

(2) JMLA主催研修会の参加者や部分参加者が得られるポイント数の算出方法について確認を行った。

(3) 審査関係書類について、永年保存とする審査結果以外の資料について、一定期間を経過した審査関係資料の廃棄作業を行った。今後は年末頃の委員会で、廃棄作業を継続していく。

#### 10) 専門図書館協議会との連携

(1) 城山委員長が、平成26年度専門図書館協議会 全国研究集会 第2分科会「専門図書館員のための認定資格制度を考える」において、「NPO 法人日本医学図書館協会認定資格「ヘルスサイエンス情報専門員」：制度の概要と今後の課題」を講演。2014年7月9日開催。

(2) 城山委員長が、『専門図書館』誌に報告原稿を寄稿。

城山泰彦. 平成26年度専門図書館協議会全国研究集会 第2分科会：専門図書館員のための認定資格制度を考える：2.NPO 法人日本医学図書館協会認定資格「ヘルスサイエンス情報専門員」：制度の概要と今後の課題. 専門図書館. 2014;(267):29-33.

(3) 酒井理事と城山委員長が、専門図書館協議会の「認定資格検討意見交換会」に出席。2014年8月19日開催。

(4) 酒井理事が、専門図書館協議会より依頼があり、図書館総合展フォーラム「自分の価値を高めませんか？」においてパネルディスカッションで講演。2014年11月7日開催。

11) 酒井理事と城山委員長が、情報科学技術協会 (INFOSTA) より寄稿の依頼を受け、共著で『情報の科学と技術』誌に寄稿。2015年2月号掲載の「情報専門職の将来」という特集。

12) 酒井理事が、日本看護図書館協会において、専門職能力開発プログラムについて講演。2014年12月6日。

### 3. その他の報告事項

#### 1) 関係機関との協力

JMLA と日本看護図書館協会との協定により『看護と情報』誌に無償で広告を掲載できることになった。今後は協会同士の交流を深めていくことを期待したい。

### 4. 今後の課題

1) 申請促進の広報強化は進んでいるが、認定取得者がメリットを感じ、存在を主張するような強固なブランディング戦略を引き続き検討する。準備中のイメージロゴの商標登録の後に、プロモーショングッズの作成・配布を進める。

2) JMLA ウェブサイトに掲載している規程などについて、更新作業のミス防止や簡素化を目指して、PDFでの提供等を検討していく。

3) 申請要件(中級・上級)では、専門学協会活動の活動項目を必須化したことに伴い、ポイント表に関連活動の項目を増やした。協会として、さらに積極的に協会活動に加わることができるような、仕組みや事業展開が必要であると考えます。

4) ポイント表について、ポイント数や表記内容等を整理して、実態に合うよう、またわかりやすくなるように改訂をすすめる。また詳細な事例については、委員会内規として整備を進めていく。

5) 専門職能力開発プログラム案実現に向けた、体制づくりと対応が必要である。

6) 他の図書館関連団体が認定する認定資格や検定試験の関係者との情報交換について、さらに連携の機会がとれるよう、積極的に関わっていく。

## X. 受託事業 受託事業委員会

### 1. 委員

担当理事 河合 富士美（聖路加）、諏訪部 直子（杏大医）  
委員 長 河合 富士美（聖路加）  
委員 総務会兼務

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

- (1) 委員会として会議は持たず、総務会で全体を統括した。
- (2) それぞれの事業はワーキンググループを組織するなどして活動した。

#### 2) 医学中央雑誌刊行会受託事業

- (1) 医中誌 Web 講習会（一般向け）を開催した。
  - (2) 米国国立医学図書館分類法（NLMC）日本語版作成を開始した。
- ※詳細は事業別報告を参照のこと。

### 3. 事業別報告

#### 1) 診療ガイドライン作成支援－診療ガイドラインワーキンググループ

##### (1) 委員

担当理事 諏訪部 直子（杏大医）  
委員 長 河合 富士美（聖路加）  
委員 天野 いづみ（個人）、石原 千尋（名大医）、及川 はるみ（聖路加）、  
柿田 憲広（愛院大歯）、金田 佳子（富大医薬）、川崎 かおる（岩医大）、  
國見 裕美（徳大蔵）、玄馬 寛子（倉敷中病）、小嶋 智美（個人）、  
佐藤 正恵（個人）、高橋 奈津子（聖隷浜）、成田 ナツキ（個人）、  
堀米 拓哉（日大歯）、満岡 侑子（連中）、森正 智子（昭和大）、山  
崎 むつみ（静岡がん）、山口 直比古（個人）、愛知医科大学医学情報  
センター（代表：小林 晴子）、大阪市立大学学術情報総合センター医  
学分館（代表：中瀬 範子）、杏林大学医学図書館（代表：諏訪部 直子）、  
慶應義塾大学信濃町メディアセンター（代表：館 田鶴子）、信州  
大学附属図書館医学部図書館（代表：青木 綾乃）、東京慈恵会医科大学  
学術情報センター（代表：阿部 信一）、東京女子医科大学図書館（代  
表：三浦 裕子）、東邦大学医学メディアセンター（代表：大谷 裕）、  
名古屋市立大学総合情報センター川澄分館（代表：久田 睦美）、奈良  
県立医科大学附属図書館（代表：鈴木 孝明）、日本医科大学図書館（代  
表：渡辺 由美）、広島大学図書館霞図書館（代表：込山 祐佳里に交  
代）【下線＝リーダー】

##### (2) 事業報告と年間目標の達成状況

###### ①会議の開催

第1回リーダー会 平成26年8月9日  
第2回WG委員会 平成26年8月29日

###### ②受託状況

18学会・研究班より25ガイドラインを新規に受託した。（詳細は別紙参照）。ガイドラインを作成する厚労科研が多かったこと、診療ガイドライン作成方法が変わり文献検索が重要であることが周知されたことにより受託件数が想定外に多くなっ

た。

### ③研修会の開催

平成 26 年 8 月 28 日～29 日に文献検索講習会上級を聖路加国際大学にて開催した  
29 名（内、非会員 2 名）が受講した。

### ④BunKan の改良

BunKan4.0 をリリースした。しかし、今後も継続して保守が必要である。

### ⑤ガイドライン受託条件の見直し

受託件数の増加のため未着手となった。

### ⑥CQ と検索式のデータベース化

受託件数の増加のため未着手となった。

### ⑦文献検索リストや CQ・KW・代表文献リスト等関係文書の集中管理

受託件数の増加のため未着手となった。

## (3) 今後の課題

①今年度未着手となった 3 件に取り組む。

②診療ガイドラインワーキンググループの業務体制を見直し、強化を図る。

## 2) 医学中央雑誌刊行会受託事業

### (1) 医中誌 Web 講習会（一般向け）の実施

開催日:2014 年 10 月 4 日

会場:Learning Square 新橋

参加者数:19 名（うち非会員 15 名）

講師:諏訪部 直子（杏大医）、サポーター:横塚 玲奈（獨協医大）、秋葉 さおり  
（福島医大）

### (2) 米国国立医学図書館分類法（NLMC）日本語版作成ワーキンググループ

#### ①委員

担当理事 河合 富士美（聖路加）

諏訪部 直子（杏大医）

グループ長 小嶋 智美（個人）

委 員 鷹野 祐子（都医学研）、橋本 郷史（東邦大医）、廣瀬 洋（埼医大）、  
滋賀医科大学附属図書館（代表：寺升 夕希）

アドバイザー 阿部 信一（慈恵大）

#### ②事業計画と年間目標の達成状況

##### ・会議の開催

第 1 回 2014 年 10 月 30 日

第 2 回 2015 年 2 月 18 日

##### ・作業計画

3 年間の作業計画を立てた。

##### ・作業手順

分担と今後の作業手順を決定した。

作業の効率化と版下作成準備のためのフォーマットを作成した。

## 4. 今後の課題

1) 米国国立医学図書館分類法（NLMC）日本語版作成の継続（2 年目）。

2) 医学情報サービスのバリュー・スタディを開始する。

2014年度受託事業 診療ガイドライン一覧		学会	執筆者	委員会出版	備考
ガイドライン名					
GLI1401	急性脳症診療ガイドライン	日本小児神経学会	山口(個人)、佐藤(個人)、リーダー:山口	2014.03.02東京(山口)	
GLI1402	急性肺炎診療ガイドライン	急性肺炎診療ガイドライン2015(第4版)出版委員会	山口(個人)、河合(聖路加)、成田(個人) リーダー:山口		
GLI1403	変形性股関節症診療ガイドライン	日本股関節学会	及川、河合(聖路加)、香大医		
GLI1404	がん薬物療法時の腎臓診療ガイドライン	日本腎臓学会	奈医大		
GLI1405	腎疾患患者の妊婦ガイドライン	日本腎臓学会	奈医、高橋(聖路加)、リーダー:諏訪部		
GLI1406	先天性胆道閉鎖症診療ガイドライン (H26 難治等(難)一般-086)	厚生労働科学研究費補助金	小嶋(個人)		
GLI1407	胆道閉鎖症診療ガイドライン	厚生労働科学研究費補助金	山口(個人)、高橋(聖路加)、佐藤(個人) リーダー:山口	2014.05.11大阪(河合)、2014.10.10東京(山口、佐藤)、 2014.12.27東京(山口、佐藤)	
GLI1408	成人における睡眠時無呼吸症候群の臨床管理(検査、治療)	日本神経科学学会	阿部(慈恵大)、成田(個人)、リーダー:阿部		
GLI1409	がん患者の外見ケアに関する指針	がん研究開発費	及川(聖路加)、加藤(個人)、佐藤(個人)、山崎(特固がん)、吉野(個人)、玄馬(徳大) リーダー:河合		
GLI1410	小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を含むガイドライン	厚生労働科学研究費補助金	吉野(個人)、河合、小嶋	2014.07.06東京(河合)、2014.09.15東京(河合)	
GLI1411	難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患	厚生労働科学研究費補助金	小嶋(個人)	2014.12.6東京(河合・小嶋)、2015.2.20東京(小嶋)	
GLI1412	CAKUT	厚生労働科学研究費補助金	河合	2014.08.06東京(河合)、2014.09.24東京(河合)、 2015.03.16東京(河合)	
GLI1413	ANCA関連血管炎の診療ガイドライン	厚生労働科学研究費補助金	香大医、森正(昭和)、リーダー:諏訪部		
GLI1414	慢性活動性EBウイルス感染症とその関連疾患の診療ガイドライン	厚生労働科学研究費補助金	石原(名大医)、金田(富大医)、リーダー:小嶋	2014.12.02東京(小嶋)	
GLI1415	喫煙者診療ガイドライン	日本鼻科学会	小嶋(個人)	2015.02.28東京(河合)	
GLI1416	甲状腺腫瘍診療ガイドライン	日本内分泌外科学会 日本甲状腺外科学会	東女医大、東邦大医、日医大中、柿田(愛院大)、堀米(日大)、 リーダー:河合		
GLI1417	乳癌診療ガイドライン-疫学・診断編	日本乳癌学会	石原(名大医)、金田(富大医)、瀧岡(連中)/リーダー:小嶋、 慶大医、香林、日医大中/リーダー:諏訪部	2014.10.5東京(諏訪部)	
GLI1418	乳癌診療ガイドライン-治療編	日本乳癌学会	成田(個人)/リーダー:河合 瀧岡(連中)、慈恵大/リーダー:阿部、 川崎(聖大)、香林/リーダー:諏訪部		
GLI1419	薬剤性腎臓病	厚生労働科学研究費補助金	小嶋(個人)		
GLI1420	ジストニア	日本神経学会	慈恵大	2014.?.?.東京(阿部)、2015.3.8東京(阿部)	
GLI1421	慢性便秘の診療ガイドライン	日本消化器病学会 慢性便秘の閉鎖研究会	河合		
GLI1422	多発性硬化症-精神神経腫瘍診療ガイドライン	日本神経学会	国弘(徳大)、飯市、寺井(滋医大)、奈医大、リーダー:鈴木	2015.01.22東京(河合)	
GLI1423	パーキンソン病診療ガイドライン	日本神経学会	未定		
GLI1424	進行がん患者の泌尿器症状ガイドライン	日本泌尿器病学会	奈医大、リーダー:河合		
GLI1425	便失禁診療ガイドライン	日本大腸肛門病学会	未定	2015.01.29東京(河合)、2015.04.03東京(河合)	

## XI. 協会賞・奨励賞選考

協会賞・奨励賞選考委員会

### 1. 委員

担当理事 酒井 由紀子（個人）

委員長 野坂 美恵子（東医大）

委員 石井 保志（東医歯大）、今泉 千代（日看協）、野口 真理子（東大医）、南 泰樹（聖マ医）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 2014年10月17日

第2回 2014年12月19日

第3回 2015年2月19日

#### 2) 2014年度協会賞・奨励賞の選考

##### (1) 広報

会員による応募を促進するために、候補募集についてホームページに文書を掲載し、『医学図書館』誌および協会メーリングリストによる広報活動を行った。

##### (2) 協会賞・奨励賞候補業績の選考

第3回委員会で候補業績を選考し、理事会に報告を行った。

### 3. その他の報告事項

#### 1) 事業体制の整備

##### (1) 方針の確認

教育・研究事業の一貫として、教育・研究委員会の下で活動していた本委員会だが、独立して活動するものとし、今後、事業報告・事業計画の策定と提出等を他の委員会同様に行うことを確認した。また、協会賞・奨励賞の応募を促進するために広報に力を入れること、『医学図書館』誌に掲載された著作物はもとより、幅広い業績に目をむけること、要件や手順をわかりやすくするよう規程を整備していくことが確認された。

##### (2) 役割分担と新体制による始動

今年度は大幅な委員の交代があった。また上記の新方針を実現するために、主要な関係誌を全員に割り振り、広報担当および規程改定担当も含めた役割分担を行い、活動を開始した。

#### 2) 「協会賞・奨励賞授与取扱い規程」の改定案

自薦・他薦とも応募可能である旨、また応募者と受賞者の範囲を明確にし、手順をわかりやすくするなどの目的で規程の改定案を作成し、理事会に提案すべく、組織・制度委員会のチェックに回付した。

### 4. 今後の課題

#### 1) 新規程にもとづく協会賞・奨励賞の選考

改定された規程にもとづいた協会賞・奨励賞の選考が望まれる。

#### 2) 広報の拡充

今年度は新体制による始動に時間を要したため広報開始が遅くなった。今後は早くからの広報開始、また地区会事務局への協力依頼や、著作物に限らず、協会の活動に寄与した業績も候補とするために、各委員会へも推薦を広く呼びかけるなど、広報のさらなる拡充



が望まれる。

## XII. 国際交流 国際交流委員会

### 1. 委員

担当理事 諏訪部 直子（杏大医）

委員長 佐藤 晋巨（聖路加）

委員 玄馬 寛子（倉敷中病）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 平成26年11月21日

#### 2) 米国医学図書館協会（以下、MLA）との連携

(1) 2014年5月開催のMLA'14に参加した。

酒井理事、玄馬委員が派遣され、International Cooperation Section(ICS)主催のビジネス会合、International Visitors Reception、Dining Circle、International Job Exchange Program についてのオープンフォーラムに出席及び、個別打ち合わせ、2014年JMLA総会へ招聘予定のMLA公式代表への挨拶を行った。

(2) MLA参加促進キャンペーンを実施した。

今後のMLA参加を促進するために、「MLAへ行こう」ちらしを2014年総会（2014年5月30日～31日）および医学図書館員基礎研修会（2014年8月6～8日）で配布した。

#### 3) 韓国医学図書館協議会（以下、KMLA）との連携

(1) 2014年度KMLA秋期学術大会へ会員1名を派遣した。

開催日時：2014年10月16日(木)～17日(金)

派遣者：大谷 裕（機関誌「医学図書館」編集委員長）

内容：大会にて河合専務理事の挨拶を代読し、講演（Research trend of Japanese medical librarians）を行った。

理事会日程の都合により、理事派遣は行わなかった。

(2) 2015年度第86回JMLA総会へKMLA会員2名の招聘の準備を開始した。

(3) KMLAより提案のあった、若手図書館員の交流を促進するための相互図書館訪問の実施に向け、教育・研究委員会に協力を行った。

(4) KMLAと2者協定を締結するため、MLAとの2者協定をもとに、協定の締結に向けて連絡調整を行った。

(5) 研修内容の情報交換について、JMLA実施分について英訳し、KMLA担当者へ送った。

#### 4) 英語ホームページ更新

海外の図書館員を対象に、協会の活動を広報するためのホームページの更新を行った。

### 3. その他の報告事項

1) 教育・研究委員会との役割分担を行った。

他国との交流に関して、教育研修及び交流に関することに業務をわけ、それぞれの委員会で分担を決めた。

2) 酒井前担当理事が海外の専門雑誌から依頼を受け、日本の医学図書館の状況を紹介する

以下の記事を、国際協力委員を共著として執筆し掲載された。

Trends in Japanese medical libraries in the first decade of the twenty-first century.  
Health Information and Libraries Journal. 2014;31(3):239-40.

#### 4. 今後の課題

- 1) KMLA 連携事業における覚書の締結
- 2) MLA との二者協定に基づく連携事業の継続
- 3) 国際交流委員会の業務内容について覚え書きの更新
- 4) 英文ホームページの更新

### XIII. 組織・制度 組織・制度委員会

#### 1. 委員

担当理事 村上 健治 (滋医大)

委員長 尾崎 聖太郎 (麻布大)

委員 加藤 恵子 (国がん)、新谷 知之 (東海大伊)、土佐 智義 (個人)

#### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

##### 1) 委員会の開催

第1回 2014年9月1日

第2回 2014年11月6日

第3回 2015年1月21日

第4回 2015年3月19日

##### 2) 表記基準の作成と周知

「新訂公用文の書き表し方の基準(資料集)」(文化庁, 2011)を参考に  
表記基準(案)の作成について検討を行った。

##### 3) 本会の活動に即した法人組織の在り方の提案

協議した結果を提案として取りまとめ、総務会(12/5開催)に提出した。  
その後、評議員会(1/13開催)に議題として提出された。

##### 4) 規程、細則等の改正及び制定

以下の規程、細則の改正案を作成し、理事会に提出した。各改正案は、理事会で審議・承認の後、施行した。

「入会及び退会に関する細則」、「役員を選任方法に関する細則」、「地区会に関する細則」、  
「評議員及び評議員会に関する細則」、「総会運営に関する細則」、「理事会の運営に関する  
細則」、「総務会規程」、「委員会規程」、「資産管理規程」、「旅費規程」、「教育・研究規程」、  
「ヘルスサイエンス情報専門員認定資格規程」、「研究助成費及び海外研修助成費給付規程」、  
「奨学基金規程」、「日本医学図書館協会所有電子資料利用規程」、「委員会内規(広報委員  
会、医療・健康情報委員会)」、「部会に関する内規」(上記、いずれも2014年10月31日  
施行)

「入会及び退会に関する細則」(2015年2月17日施行)

#### 3. 今後の課題

- 1) 規程全般にわたる整合性の確認・体系化(定款・規程・細則・内規)
- 2) 規程・細則・内規の見直し

- 3) 表記基準の作成と周知

## **XIV. 部会**      病院部会

### 1. 幹事

奥出 麻里 (千葉 MC)    連絡責任者

泉 峰子 (科学院)、加藤 恵子 (国がん)、玄馬 寛子 (倉敷中病)、佐藤 正恵 (個人)、  
安田 多香子 (愛知がん)

### 2. 活動報告と年間目標の達成状況

#### 1) 幹事会の開催

第1回 2014年9月6日

#### 2) 病院部会定例会

第85回総会分科会において定例会を開催した。参加者は会員26名。

#### 3) 見学会

2015年2月21日に高知医療センターの見学会を開催した。参加者15名 (会員9名、  
非会員6名)。